



船舶のスクリューをかたどったモニュメント

博多湾物語

阿波船つてなに?!

福岡市中央区港2丁目の『かもめ広場』に、かつて博多湾を基地に活躍した以西底曳き網漁業の盛衰を物語る大きなモニュメントがある。1999（平成11）年、日本遠洋底曳網漁業協会福岡支部（翌年解散）が市に寄贈した。

全盛時には200隻を超える底曳き網漁船が東シナ海や黄海で活躍、豊富な魚類を65年間にわたって地元市民をはじめ関西、首都圏の食卓にもたらし、それを支えたのが徳島県の「阿波船」だった。

いせいそこび 「以西底曳き」と徳島漁船団

黒田藩時代、軍船の泊地だった西公園（福岡市中央区）東側の福岡港は、西北の風を西公園の山がさえぎる博多湾内最良の船溜まりだった。しかし明治時代以降は水深が浅くさびれかけていた。

一方で、長崎県・福江島の玉之浦を根拠地に遠洋漁業に乗り出していた徳島県九州出漁団は、今から84年前の1934（昭和9）年、大消費地に近い福岡港の将来性に着目し、集団移転を決断した。

福岡市議会の熱心な誘致運動もあって、200隻を超える漁船と船員、家族約3千人が北湊、西湊、入船の各町（現・中央区港1〜3）に順次移り住んだ。

船員の共同住宅が建ち、関連の造船所、鉄工所、製缶工場、製氷工場などの漁港機能が整備されると、一帯は徳島弁が飛び交う独特の雰囲気のある港町に変身した。

1964（昭和39）年当時、地元の簗子（すのこ）校区の人口は14,406人。「湊銀座通り」と映画館「すのこ東映」があって、銭湯は3軒を数えた。

★

最盛期には226隻の底曳き網漁船が相次いで中央卸売市場の岸壁に接岸して、昼夜を通して荷揚げを行い、競り落とされた鮮魚は市場に引き込まれた鉄道専用線で大阪を筆頭に神戸、名古屋、広島、岡山のほか、遠く東京、静岡などに運ばれた。

★

2、3面に特集

「徳島の阿波船と以西底曳き網漁業」

盛衰の六十五年間

博多湾にやってきた徳島の阿波船が福岡市民の食卓にどれだけの恩恵と美味をもたらしたか。あの戦中戦後の食糧難時代を知る世代なら、うなずくのではないでしようか。
魚種も豊富で、グチ、エソ、タチウオ、ハモ、レンコダイ、ニベ、カレイ、コウイカ、タイシヨウエビなどが魚屋の店先を彩り、グチや

徳島の阿波船と 以西底曳き網漁業

盛衰の六十五年間

徳島県立博物館学芸員 磯本 宏紀

昭和初期の福岡港と徳島県南部とのつながり

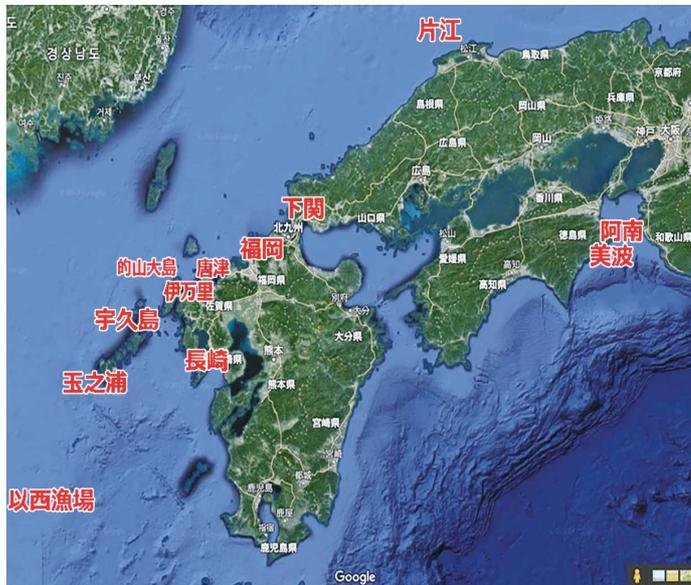
「福岡市には博多港と福岡港とが東西にある。前者は旧港にして今は築港が出来、商港と漁港とを兼ねてゐる。後者は新港にして阿波の手練船が占領してゐる漁港なのである。漁港の沿岸北湊町一帯は全くの阿波町であつて船主、船員、商人等家族を含めて二千人近くの阿波人が此処に住んで居る。」(笠井・1941)

昭和16(1941)年9月発行の笠井高三郎『阿波人開発支那海漁業誌』中の「福岡見聞記」と小見出しが付けられた一文である。笠井はこの文章に続けて、海岸通りは三町余りあり、立派な船主の住宅が並んでゐるとして、家並みを列記していく。富永恒太郎、山本惣吉、徳島岩吉、増田石油店支店、橋本権吉、九州出漁組合

エソは練り物(かまぼこなど)の材料としても親しまれました。

「福岡市の住み良さを支える一つの要素に安くてうまい魚があるが、この海の幸は徳島漁業団誘致に負うところが大きい」と言われたものです。

(編集部)



阿波船団の出身地と漁業基地概略

福岡支所、廣田善吉、藤目常太郎、森口幸夫、大野信太郎、勝瀬勇、齋藤庄次郎、門田豊一、竹内満三郎、谷澤徳治郎、浜口吉三郎等徳島県南部にゆかりのあるテグリ船主の名前が並ぶ。その多くが、現在の徳島県美波町(旧由岐町、旧日和佐町)、阿南市椿泊の出身者だった。

笠井が福岡の町を調査で訪れたのは、昭和15(1940)年だった。そのころすでに福岡港海岸通りには「阿波町」が形成されていて、海岸にはテグリ船と呼ばれる二艘曳底曳網漁船が所狭しと並び賑わっていた。その阿波船団が福岡港を基地とすべく移転を始めたのは、そのわずか6年前の昭和9(1934)年のことだった。

この二艘曳底曳網漁船が活躍する以西底曳き網漁業は、もともとは東経130度以西、現在は128度以西の東シナ海・黄海等を許可水域とする遠洋漁業である。福岡をはじめ、長崎、戸畑、下関、伊万里等を基地とし、他地域から来た船団が漁を行っていた。その代表格とも言えるのが、徳島県出身者によるアワセン(阿波船団)である。

阿波船団の福岡への移転

福岡に移ってくる以前、大正期から昭和初期にかけて阿波船団の基地は長崎県福江島の玉之浦にあった。東シナ海で延縄漁をしていたが、出雲船(片江船団)の五島列島沖での二艘曳底曳網漁法の成功を受けて、大正中期以降には急速に漁法を転換していった。それまで漁場に近く、釣り餌を入手しやすい玉之浦が有利な基地だった。しかし、漁法が底曳網に変わり、水産物の運搬が鉄道を利用した陸送へと変わりつつあ



東シナ海で操業する底曳き網漁船(島野禎介氏撮影)



福岡港の以西底曳き網漁船（昭和44年10月4日）



待機する底曳き漁船。中央遠景は殉難者慰霊碑（矢印）
（昭和35年6月13日）

た当時、都市部の港へ基地を移すことは、阿波船団のその後の発展に大きな影響を及ぼした。福岡移転に先立って、大正末期には長崎への移転が本格化していた。それまで拠点にしていた玉之浦を離れての移転である。当時の船団の移動は、大規模な人口移動をもたらす。テグリ船1隻に10数人、2隻1統で25人前後が乗り組む。その船員には家族がいる。漁船を支える漁具、船具、造船、鉄工所、製氷、石油、仲買、運送等の関連業者もいる。阿波船団の漁船が移転することでこうした業者も一緒に動く。かくして、福岡市は玉之浦に、徳島にと出向いて説得にあたり、福岡港を修築することを条件に阿波船団の一部の誘致に成功した。

徳島県南部から移り住んだ漁民と漁業

筆者は徳島県南部から福岡に移り住んだ多くの元漁師さんにインタビューさせてもらった。福岡近郊には徳島県南部出身の方が今も多く暮らす。

幼少期を徳島県南部で過ごし、昭和20年代に中学校卒業と同時に先に移り住んだ同郷者を頼って福岡で船に乗った。その同郷者がテグリ船の船主だったり、船頭（漁労長）だったりした。地元のカツオ船よりも九州のテグリ船に乗ることを選んでやって来た。最初は「飯炊き」から始め、翌年には船員として「一人前」をもらえらるようになった。当時の漁船の報酬は歩合制だった。水揚げの多い船頭の船に乗れば、それだけ実入りが良い。

だが仕事はきつかった。昼も夜も網を曳き、網を揚げると甲板では魚の選別、箱詰め作業が待っている。船が網を曳いているわずか2時間

足らずの時間が睡眠時間だった。甲板で合羽を着たまま寝た。そんな過酷な労働環境下で、事故も多かった。また、韓国、中国当局に拿捕され、長期間の抑留を経験した。それでも、漁獲があり大きな利益を上げていたので、船員が集まった。徳島県南部からの若い移住者が続いた。結婚したのは、

同郷女性である。船員だけでなく、主婦層の移住者も実は多い。出身地の血縁、地縁をベースにした緩やかなつながりが数世代に渡って継承されてきたのだ。

昭和50年ころになると、以西底曳き網漁業の斜陽が色濃くなる。オイルショックや船員不足、魚価の変化、網目規制による漁獲制限等により漁業経営として立ちゆかなくなった。こうして各社の廃業が続き、ついに平成12（2000）年、福岡港の以西底曳き網漁業はすべて廃業した。廃業後も、あるいは船を降りた後も徳島県南部からの船員たちは福岡に定住している。かつての「阿波町」の賑わいはないが、かつての栄華を語る当事者たちはまだ健在である。

（原文のまま）

〔引用文献〕笠井高三郎編著『阿波人開発支那海漁業誌』（1941年・阿波人開発支那海漁業誌刊行会）

◇筆者略歴◇ いそもとひろのり 1975年岡山市生まれ。東京学芸大学教育学部国際文化教育課程日本研究卒。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士前期課程修了、博士後期課程中退。2002年より徳島県立博物館学芸員。

お願い

能古博物館では『博多湾物語』のひとつとして福岡市を基地に活躍した『以西底曳き網漁業』の偉業を後世に伝える資料を集めています。詳細は6面に。ぜひご覧ください。

75年前、能古島に季節保育所 福岡友の会 3週間延べ千三百人



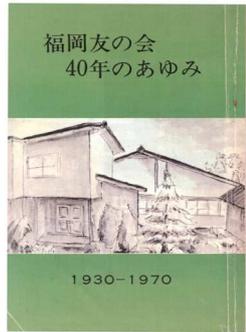
季節保育所を終えて (お別れの記念撮影)

「ご存知ですか? 戦前の1942(昭和17)年6月、能古島で3週間の季節保育所が開かれたことを・・・」。

能古博物館の「友の会」会員、馬場浩太さん(広島市在住・81歳)から貴重な資料が届いた。本文約80ページの冊子『福岡友の会40年の歩み・1930～1970』のコピー。

時代は太平洋戦争たけなわの夏。島内で当時としては先駆的な「農繁期託児」が、福岡友の会・青年班の若い女性たちの手で行われていた。

『歩み』に掲載された会員の手記を紹介します(敬称略)。



「福岡友の会40年のあゆみ」の表紙

その年の六月の農繁期に福岡県庁の依頼で、まだランプ生活だった能古島の三つの部落で、三週間の季節保育所を開いた。預かった子供は赤ん坊から幼児まで六十五人。延一三〇〇人。

ぼくは軍人大好きよ
今に大きくなったなら
鉄砲かついで 剣下げて
お馬にのって はいどうぞ
と歌わせなければならぬ時代

であったが、生活団での「手洗い」や「うがい」の歌、たのしいごはんや「手洗い丸」の紙芝居は、純な島の子供達にも喜んで受け入れられた。

(石賀 信子)

朝早く姪浜から小舟に揺られて能古島へ。東西北と三班に分れ私は西のお寺に日参。今とは似ても似つかぬ且ての農家。緋の筒袖を着た鼻たれ赤ん坊を背負い、竈(かまど)の前で慣れぬ薪焚きに涙をポロポロ流しながら、おやつ作りをしたものです。子供達は保育料の代わりに毎朝お米と自作の野菜を持って来て、それが茶巾絞りや甘煮になりたりするのです。

朝七時から夕方暗くなるまでおむつを替え、おんぶにだっこ、紙芝居と、千手観音さながら。夜更けに診療所の五右衛門風呂に入り、湯船の中にまで差し込んで来る月の光を浴び(中略)湯上りは夜半の波打ち際にたたずみ、故知らぬ感動を覚えた貴重な日々でした。

若さ!!という事の充実感だったと思えます。皆20歳を幾つも出ていましてした。

(山崎 邦栄)

福岡友の会とは

会員数285人。1930(昭和5)年、羽仁もと子創刊の雑誌「婦人の友」の読者によって生まれた社会教育団体「全国友の会」の下部組織。

敗戦翌年の1946(昭和21)年、福岡友の会・青年班は博多港に引揚げてきた旧満州からの孤児の世話を引き受け、福岡市内の収容施設「聖福寮」で164人を介護。手記の筆者石賀、山崎さんは率先して参加した。

能古小・中学校で 小中一貫教育

来年度スタート 小1から英語

博物館近くの高台にある能古小学校(児童数72人)と同中学校(生徒数53人)が一緒に、来年度から新しい時代を迎えます。

福岡市では初めての小中一貫校の誕生です。

小学1年から中学3年までの9年間を通じて、外国人教師らが英語の授業を行い、またデジタル教科書やインターネットを利用した遠隔授業を取り入れ、21世紀に通用する人材を育てます。



歩いて登校する児童・生徒

また小規模校ならではの機動性を生かして、中学の先生による小学校高学年の授業を行います。数人の先生が一緒に指導する「チームティーチング」もあります。

小・中学校にはこれまでも島ならではの学校行事がありました。島民の皆さんの協力のもと、タマネギを植えて販売したり、夏休み前の遠泳大会で小戸公園から島の西岸までの約1.5キロを泳いだり。一貫校もこの伝統を継承します。

チラリ
拝見!

よその博物館

フェルケール博物館 静岡市清水区



館の前庭が入館者をひきつける

フェルケールはドイツ語でVERKEHR。「交通」「交際」の意味です。まず水をたたえた館の前庭が目をはききます。中に入ると国際貿易港、工業港、漁港として重層的に発展してきた清水港の史実を、荷役の作業員像、和船の模型などが雄弁に語り掛けてきます。輸出入のお茶、みかんの展示はこの地ならではの特色でしょう。別棟の缶詰記念館は、昭和初期に日本で初めてまぐろ缶詰を製造、アメリカに輸出した実績を誇らしげに伝えます。

清水港も博多港と同様に近年は外国クルーズ船の誘致に取り組んでいます。博物館の英語名は[SHIMIZU PORT TERMINAL MUSEUM]。客船ターミナルに近く、海外の観光客の関心を引くに十分です。

そうそう、シミズミナトの名物は お茶のかおりと男伊達：でした。近くに清水次郎長の生家があります。



実物大の荷役作業員像



多彩な和船の模型

日本海海戦から113年 博多湾口で洋上追悼式

日本の国難として語り継がれる1905(明治38)年5月27、28日の日本海海戦で、日本海軍連合艦隊は帝政ロシアのバルチック艦隊を撃破、圧倒的な勝利を収めました。博多湾と戦闘海域の対馬海峡とは目と鼻の先。「砲声を市内で聞いた」という市民の声が残されています。

今年も恒例の体験航海と洋上追悼式が5月27日(日)午後行われ、海上自衛隊の訓練支援艦「てんりゅう」(2450ト)に乗った招待客や会員制による希望者が、博多湾口の玄界灘で洋上追悼式を行い、隊員が弔銃を発射して両軍の戦没者を悼みました。

これに先立ち福岡市東区箱崎の宮崎宮本殿で、日本海海戦113年記念大会・彼我戦没者海洋殉難者慰霊平和祈念式がありました。



隊員が弔銃を発射



訓練支援艦
「てんりゅう」

カメラスケッチ



能古島の白髭神社で10月9日、例祭の「おくんち」があった。1983(昭和58)年に福岡市の無形文化財に指定された伝統行事。台風一過の今年は晴天に恵まれ、島の人たちは秋晴れの1日を厳かに、そして楽しく過ごした。

御幣持ちの子どもたち
(5～6歳の男の子が務める)



柿、栗、ミカンを竹串に刺した
モリモン(神前に供える)



以西底曳き網漁業の資料を集めています!

福岡漁港で65年間にわたって大きな存在感を示した阿波船の偉大な足跡を21世紀に残す作業です。当時の航海日誌、装備品をはじめ、操業や船内生活の様子、出港・帰港風景、町の表情、阿波踊りなどのスナップ写真。新聞記事のスクラップ。船員手帳、作業で使った手鉤(かぎ)、阿波踊りの法被など。どんなものでも結構です。写真を撮ってお返しすることもできます。

★
ご提供、ご協力いただける方は左記にお声掛けください(写真は出港風景)。

〈連絡先〉

公益財団法人亀陽文庫・能古博物館。
電話 (092) 8833-2887
FAX (092) 8833-2881
E-MAIL info@nokoshima-museum.or.jp
住所 〒819-0012
福岡市西区能古522-2



館内の英語表示

福岡市内では観光案内所はもとより地下鉄、バスなどでの多言語案内が急ピッチで進んでいます。スマホの案内図を見ながら歩く外国人の姿も珍しくありません。

当館でも海外のお客様が少しずつ増えてきました。英語、中国語、朝鮮語圏などから年間数百人程度ですが、手始めにまず館内展示の「英語説明」を小さなパネルで始めました。要員や経費の関係で多言語化は容易ではありません。これからの大きな課題です。

主なグループ来館

(平成30年3月～10月)

- ▼(3月)4日(日)福岡市内高校生グループ7名、11日(日)二松学舎大教授(論語資料調査)2名
- ▼(4月)1日(日)新老人の会12名、7日(土)中国人観光団体80名、27日(金)生協情報誌「クリム」取材
- ▼(5月)1日(火)RKBテレビ取材、19日(土)西区よかとこ案内人(あこめの会)27名、20日(日)市内の視覚障害者団体(付添人含む)14名、31日(木)佐賀県の団体(同窓会)7名
- ▼(6月)24日(日)市内の会社OB会7名
- ▼(7月)1日(日)福岡大学生グループ
- ▼(9月)6日(木)能古小5年生(自然教室)10名、22日(土)児童デイサービス「めばえチューリップ」11名、24日(月)市内小学生2グループ(能古古窯跡研究)14名

お礼

友の会の会費振り込み月を毎年4月に統一し、皆様にお知らせしましたところ、お陰様でこの7月までにはほぼ全員の方から今年度の会費を頂戴しました。ご協力に對し厚く御礼申し上げます。有難うございました。また、協賛寄附の個人と法人の皆様についても同様のご協力を得ました。併せてお礼申し上げます。能古博物館

平成30年度 能古博物館協賛ご寄附及び友の会会員の会会員 (9月分)

協賛ご寄附

(法人)

- 医療法人笠松会有吉病院
医療法人社団江頭会
(医)原三信病院
医療法人恵光会
(医)西福岡病院
(医)博仁会
(医)原土井病院
(株)メディカルアシスト青葉
(株)サンコー
(株)CDS
(株)ホームケアサービス
(株)ふく福サービス
(株)あおば研究所
(株)旭工務店
(株)内藤工務店
(株)筑紫不動産
(株)彩苑
西日本シティ銀行
浄満寺
(株)アサヒホーム
エムサービス(株)
税理士法人エム・エイ・シー
エス・ペランサ税理士法人
ワイエムフーズ

(個人)

- 足立晴道 石野智恵子 出光豊
出光芳秀 毛戸彰 亀井准輔
岸恒憲 古森英毅 島塚祐弘
鈴木友和 添島律子 副島靖弘
筒井勝美 戸井雅貴 林純
溝上泰興 翠川文字 安松正美
(敬称略順不同)

友の会会員

注1敬称略五十音順
数字は会員歴(年数)

Table with 3 columns: Member Name, Member Number, and Member Name. Lists members and their tenure in years.

協賛寄附のご案内

法人100万円×口数 個人100万円×口数
*協賛ご寄附及び友の会会費は、税制上の「寄附控除」の対象になります。

納入方法

- 1、郵便振替え 017300960970
公益財団法人 亀陽文庫
2、銀行振込み
西日本シティ銀行土井支店
普通 0551459
公益財団法人 亀陽文庫

友の会入会の案内

友の会会費

1000円(何口でも可)

※会費の納入方法
郵便振替
017300960970
公益財団法人 亀陽文庫

- (1) 振込み料は当館にて負担致します。
(2) 会費の納入確認後、会員証とコーヒーマグをお送り致します。
(3) 会員証の有効期間は1年と致します。
(4) 入館時に会員証を付けてご提示下さい。ご入館は随意で何回でも無料です。(ご同伴1名まで無料)
(5) コーヒーマグで挽きたてのコーヒーを博多湾を見ながらお飲みいただけます。
(6) 機関誌「この博物館だより」をお届け致します。随時やご意見を歓迎します。掲載を希望する場合はご容赦願います。原稿は必ずお返し出来ません。必要なら事前にコピーをお願い致します。
(7) 館が企画する催物のご案内に参加費の割引を致します。

ようこそ博物館へ



凡例

- バスコース (能古学校前バス停から徒歩約4分)
- 徒歩コース (渡船場から徒歩約15分)
- 館内散策路
- 名所・旧跡
- お食事、みやげ物店など
- 博物館案内板
- バス停

開館日 / 毎週 金曜・土曜・日曜と祝日
 5月、10月は全日開館
 ※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください
開館時間 / 10:00～17:00(入館16:30まで)
入館料 / 大人400円・高校生以下無料
 ※団体20名以上2割引
 (注) 冬季(12月下旬～2月下旬)は、展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成29年12月現在) ※博物館へは「能古学校前」で下車して下さい。

渡船場前発 アイランドパーク行	平日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	
	土曜日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	
	日・祝日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	17:55
アイランドパーク発 渡船場前行	平日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	
	土曜日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	
	日・祝日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	18:32

※ 繁忙期は臨時便が運行されます。

西鉄バス

- JR博多駅より 博多口正面Aのりば
300、301、302番「のこ渡船場行き」:約50分
- 天神より 三越前1Aのりば
300、301、302番「のこ渡船場行き」:約30分

市営地下鉄:「姪浜駅」下車乗り継ぎ

- 西鉄バス姪浜駅 北口
98番「のこ渡船場行き」:約12～20分
- タクシー:約8分

市営渡船(フェリー)

- 姪浜一能古島間:約10分

お問い合わせ

姪浜旅客待合所
TEL 092-881-8709

能古旅客待合所
TEL 092-881-0900

能古・姪浜航路 時刻表

能古 発	8	10:00	16	17:30	姪の浜 発	8	10:15	16	17:45		
1	◎05:00	9	11:00	17	18:00	1	◎05:15	9	11:15	17	18:15
2	06:00	10	12:00	18	18:30	2	06:15	10	12:15	18	18:45
3	06:30	11	13:00	19	19:30	3	06:45	11	13:15	19	19:45
4	07:00	12	14:00	20	20:15	4	07:15	12	14:15	20	20:30
5	07:30	13	15:00	21	20:45	5	07:45	13	15:15	21	21:00
6	08:00	14	16:00	22	21:45	6	08:15	14	16:15	22	22:00
7	09:00	15	17:00	23	◎22:45	7	09:15	15	17:15	23	◎23:00

※ 繁忙期はフェリー臨時便が運航され、島内バスの臨時便と接続します。 ◎印は日祝日運休 平成30年10月現在